全道展機関紙"ZEN"第13号　昭和59年8月25日発行
発行所　全道美術協会　事務局　〒063 札幌市西区山の手3条11丁目
後藤庸也方　T011（631）1602
印　刷　中西印刷株式会社　011（781）7501
編集委員　嵐　玲子　斎藤　洪人　坂口　清一
渋谷　栄一　谷内　丞　山口　惣市

ZEN 全道展機関紙 NO. 13

第39回全道展を終えて

多様な作品、質的内容的にも充実

事務局長
後藤　庸也

盛会のうちに全道展は終了した。会の将来や方向性と、今後の活力を目指して数度に及ぶ会議は徹底した話し合いをして、試行を繰り返えし乍ら部門別審査に踏み切って2年目となった。しかし審査最終日には臨時総会を持って矛盾のでた審査方法について、再度の軌道修正についての長時間の議論が闘かわされた末に、来年度40周年記念の審査方法が部分改正され決定した。

第39回展の3日間に亘る鑑別は、ある時は作品の造形性について、あるいは作家の方向性について等話し合われ、時には激論の中に審査が進められた。これは毎回見られる現象であるが、今年はそれが特に強く表われて、作品の一点一点を着実に慎重に取り扱い審査を行なった。

会場構成も鎌田俳捺子陳列委員長以下11名のスタッフによって綿密に練り上げられた計画と、作品の配列も全体に効果的な配慮が行きとどいて、鑑賞しやすく作品の夫々が相乗効果を上げており、今年の会場構成は与えられた狭い壁面を有効に生かした見やすい最良の展覧会場となった。

また課題であった応募点数を増やすことと作品の質を高めることはある程度満たされたが、今後の検討課題として残った。新入選が25名というのも画期的なことで、この新人を含めて、新しい血が導入されて全道展に活力をもたらすものと信じている。作品も強烈な個性と、描かれている内容とが作者の魂の深奥で語り合い触れあっている。いわゆる全道展らしい作品と、そのほかに今年は心豊かな素直な表現の作品も多く見られた。今後はそれらの人々をも伸ばしていこうとする心構えもみられるなど、今年は特に作品の多様性があったが質的、内容的に充実した展覧会となった。

来年は節目となる第40回記念展となるわけであるが優秀な作品には各部門共、特別賞の企画もあるので、どうか感性や、感覚的な発想だけにたよるのでなく、その作家自身の思想や思索の深さのある作品を次の第40回記念展に、多数の方々の出品されることを期待すると共に、益々の全道展の発展を祈願している次第である。

40周年記念全道展

会期　60年6月26日(水)～7月7日(日)
会場　札幌市民ギャラリー
搬入　60年6月12日(水)～13日(木)
＊部門別に記念賞予定

第39回全道展 入選作品寸評

〈絵画〉

成田幸子「プテック」 明るいパステル画、女性らしい題材、きびしい造型性を大画面で前向きに狙ってはどうか。**福島孝寿「ロンド」** 律動感、流動感が満ちている、赤は画面のアクセントになっている。今少し、画面処理に神経を込めてはどうか。**杉吉　篤** アッと見張る画面、農村に於ける数多くの今日的問題を抱えての発想か、底抜けに明るい楽しい農村風景か、様々に感じられる。**福井路可「還る人」** **奨励賞**　地味な色彩であるが、画面処理が誠に見事である。作者の意図の伝達性充分。**後藤やよい** きりっと締った画面、緊張感を与える。画面処理に神経がほしい。**高橋靖子「赤い作品」** きれいな赤黒がずっしりと画面を引締めている。緑はアクセントが色同志で引締めあっている作品。**中西孝亘** **「人物A」** 渋い色調であるが、新鮮な感覚派、二人の会話が聞えてくるよう。きびしく造型性を狙って。**桐明洋子「ルームランナー」** 室内にある種の緊張感を、スピード感溢れる筆触や、流動感ある描線がいやがうえにも増幅している。**三木万穂「人形の部屋」** きれいな赤、やゝもすると役者が多過ぎると総べてが相殺される。意図を明確に伝達するすべを考えてはどうか。**デュボア康子「プロムネェ」** うまい単純化、造型的な強さがある。色彩に熟ぼさ（アッピール）が欲しい。画面分割に一層の冴え（鮮やかさ）を見せてほしい。**中村礼子「夜の静物」** 密度の濃い作品、画面が良く整理されている。が、左のソファーは余りにもリアル過ぎる、画面を引締めるためにも。**土井善範**　造型性の次元の高い構成。青は良いがマチェールに一考を要す。輪郭が必然的にできたのか、又そうでなくできたのかで、感じが全く変って来る。

〈評　森田　喜昇〉

本保正行　民話的テーマをフォービックに描いてユニークだが、人物の配置と強弱の変化が散慢。色調も未消化なところあり。**千葉位子**　大きさの持つ表現効果と発想が面白い。独りよがりに陥らぬ様前進されたい。**今野秀貴**　形・構成共に力強く好感を持つが灰色から黒に至る色調がやゝ消極的デッサンと色の噛み合いが不足。**矢下瑛子**　かろやかな描線、詩的な発想・構成などがよい。色がやや浅く密度の不足を感じる。**堀川勉**　手際のよい仕事だが、色面の配置、解釈がデザイン的。観念的なのが疑問。**斉藤嗣火**　質実で力強い作画態度だがトーンと色との関係、解釈が不明確なため、鮮明さに欠ける。モノクロームに徹するか、色でかくか。**佐々木祥子**　力強い構成と素朴な情緒、テーブルのグレイとバックのグレイが同質なのが気になる。**石塚絹**　色調に細やかな情緒を感じるが形と構成が甘い。感性のみで描いた絵のもろさ。**林田理栄子**　白の色調が美しくのびのあるタッチは快よいが構成が散慢でしまりがない。**嶋倫子**　透明な色面と不透明な色面とのバランスが抽象的な美しさを持つが、作者の主張があいまいである。**清田操**　家族像を真正面から大きくとらえた発想に好感を持つが人物のデッサンの甘さ、人物とバックの風景との関係が観念的である。**西田四郎**　大まかなタッチが力強く構築的な意志が感じられ好感が持てる。だが灰色の変化に一工夫欲しい。左下のライトレッドで画面を持たせているのは疑問。今後に期待する。

〈評　神田一明〉

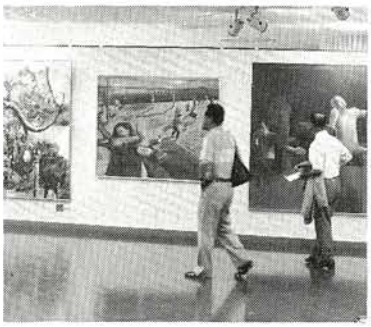
高橋智子「玉ねぎのある静物」 なぜか朝の光を思う。光の中で溶け合う台所風景。要所／＼の強いタッチが清潔。**中橋　修「迷い」** パステルの柔らかい律動が女性の心の迷いをやさしく照らす。画面を走る斜めの線の扱いはこの作品で成功。**三上博子「ほおづえをつく人」** 大胆なデフォルメ。右手と右頬の関係など細やかな表現もある。画面右上隅は疑問。**千葉幸子** **「海辺のストリート」** ブランコ、シーソーと続いて、自転車のフォルムは新しい展開。ストロークの強さに見合う色彩の強さが欲しい。**熊谷充恵「鳩のいる光景」** 手袋がそっと白い鳩を包む。真一文字に画面を切る線の採用に爽やかさを感じる。色彩にもう少々の冒険を。**加藤由紀子「ザ・ビリヤード」** 斜め斜めと線が切れ味良く交差する。フォルムの練り上げ、配色の強さ、マチェールへの配慮などが楽しい。**松井多恵子「室内Ⅲ」** 人物ふたりがのぞき込むフラスコの中では現代のニヒリズムが鈍い化学反応を起しているのだろうか。たまには視座を変えるのも一策。**佐藤公一「夜語り」** 暗い心象風景だが雰囲気に流れていない。白の強さで暗青色の闇がさらに深くなっている。**土門　一「museum Ⅱ」** ユーモラスで、どこかシニカルな表情を、恐竜の表現の甘さで消してしまったのが残念。**市川和恵「笛」** 透明だが暗い青と緑の室内。笛吹く男と聴く女の間に流れているのは単に笛の音だけだろうか。一昨年の「初夏」より数段の充実。**中田やよい「静物4」** 軽ろやかな風が吹き抜けていく、水彩。三角形の構成をさりげなく灰色がつつみ帽子や花が静かに息づく。**土屋いずみ「裸婦Ⅲ」** 奔放なポーズ、奔流のようなタッチ。淡紅色の美しい水彩。

〈評　木村訓丈〉

北野敬子「人物」 子供の表現に愛情の深まる作品である。画膚が気になるが気持のある作品です。**宮田美光**　自由表現の中に一つの表現を自分なりに持っている、二人の人物がおもしろい、馬と空間の関係はあと一歩の表現がほしい。**横山昭子**　せっかくのムードを作りながら、緊張させるべきモチーフが魚と楽器の二つに別れて、弱くなっている。**猟場亮子**　椅子に座った人物の表現は良く好きです。これをもりあげるためには、二人の人物に問題がある。色彩に心をおくべきです。**安木尚博**　線を主に動的に三人の人物をとらえているが、ここだと言える線の生命が一歩きまらない。**小野司**　人間の持つ暗の世界と自然界の現存する暗の世界を考えなをす必要がある。変わる必要あり。**中村静枝**　全体から受ける感じは良くそれだけに真険になるべき所が自分で見い出しにくくなっている。眼の表現にそれがほしい。**崎山和子**　トマトのさわさわとした感じは良い下半分の表現の考えがすこしあまい。**大友和子**　漁婦、キャンバス荒目の効果が画面にさえる。作家のもつ特性が線と動きになっている。**藤田博子**　人物の赤味のきいた作品、動きもあり、人物の存在感があり好きな作品。人物と人物の空間、かさなりなど勉強されたい。**藤井高志（奨励賞）** 一部デカルコマニーによる表現の大作、画面はあまり現代絵画的そのものであるそのあたりがこれからの制作課題であり気を付けて前進されたい。作品も見せる絵画と言うより、読ませる絵画である。その点は良い。

〈評　高橋　要〉

笠原悦子「謎・生命」 題名の如く元気が良い。全体に不必要な線が目立つ。**佐藤恵都子「ミシンを踏む」** 人体とミシンを一つのものとしてメカニックにとらえているのは良い。足の部分に一工夫欲しい。



田中ヨミス（新会友）「ベナレス落陽」 インドの思い出か―。部分の達者さはあるが、今後、絵画としての造型にきびしくありたい。**福井弘三「トラピスト新雪」** 点景人物はこの絵の場合必要ないと思う つまり道は重要な主役であるということ。**高縁晶子「浜の風景」** 昨年からの進歩を認めたい。ただ海の黒い部分が少し多い様だ。又、空の部分に追究が欲しい。**大泉康子「6月の雨」** 静けさのある色調は独特でいいが、額の中の顔の表情などが絵を甘くしているのではないか。**松本静子「シンフォニー(A)」** フォルムはよく追究している 黄や青の色づかいにもう少し神経が欲しい。**米沢史子「うみべ」** 船は力強く、デッサン力はある人だと思う。しかし画面処理が荒すぎる。**脇坂裕子「森と家々」** よく描きこんでマチエルも美しい。樹の枝など説明でなく、もっと単純化したらどうだろう。部分的点描も気になる。　**波田道則「里84―2」** 人体のデッサンは勢があっていいが、画面の下部が装飾的すぎます。**石原佑一（佳作賞）「室内風景」** ユニークなマチエルと色彩が昨年より一層明確になった。これからが大変だろうが、がんばって下さい。**伊藤勝美「ある状景84―3」** 自分のイメージを表現出来るテクニックはうまい。しかし絵画の造型的表現としては甘すぎる様に思った。

〈評　八木保次〉

隅田重明「風(1)」 白の美しい画面だが技巧に走りすぎないように、技巧だけで見せる美しさはどうしても弱くなる。**市川洋一「牛影B73」** さわやかな色感、牛の形態には戸迷いもあるが下方からのぞく顔が絵を引きしめている。**鈴木強「ピエロの休日(1)」** 素朴ですてがたい味わい。でも力量不足がその味わいとなっていたとしたら、一考を要する。**千葉征紀「静物B」** 抜群の描写力。だがそれを越えたところにいま一つの課題がありそうだ。**高木多美子「母と子」** ○○的との批判にどう答えて行くか。大事な課題に思える。　**蠣崎泰弘「少女と犬」**　**安井タカ子「きみの生誕(1)」** 色感にはいいものもあるが、中央母子像以外の部分に粗雑な描写が目立つ。一考を…。**高橋正敏「遠い部屋」（新会友）** この作者に批判は不要。すべておまかせ、今後全道展の新しい戦力になってくれるだろう。**桜田栄治郎「倉庫No.(4)」** 水準の力量だが単なる説明に終らず作者の感性が強調されると印象はもっと強くなります。**矢元政行「グランド」（奨励賞）** 先生達の影響もあろうが、それなりにこなして生活感もよく出ている。広い空間感も魅力的。**佐藤良紀「海の賦」** 写形力、構成力共にすぐれ表現された風景も大きい。資質を大事に次の展開を…。少女の表現に力不足を感じます。基本の勉強をしっかりと。

〈評　小野垣哲之助〉

中村くみこ　色調が強れつで、デッサンは力強くおおづかみな構成が、すぐれていて発想がしっかりしている。**佐藤フサ子**　この作家はマチエルも重厚ですばらしい技術を持ち、いきおいのある筆で非常に感性をもった作家でダイナミックな画面構成と、そのデッサン力があって非常に強く説得力を感じる。**山口一子**　この作家のマチエルは非常にていねいで、その詩的な精神的な表現が同一化した感覚的な仕事をしている。**紺谷博樹**　この作家は非常にユニークな目を持った精神性を持っており、今後その精神性に表現力、つまりおもしろい絵づくりを考慮すると、その独創性がなをいっそうすばらしい作品になると思います。**平野芳典**　空間といったいになった色調が融合して不思議に構成され、説得力をもっていて非常におもしろい感じがした。**茂呂理子**　裸婦のうしろ姿が女性らしい、ある種の哀しゆうを感じる、それでいて平面的な色調はやわらかさを持っていて、色彩のハーモニーも非常にデリケートな感じがする。**福井バク**　非常に力のある作家だと思う感性がデリケートですばらしい。今後を期待します。**清水昌光**　夢のような空間の中に色や人物等が透明感を持ち、ある種の精神的浮遊感を感じた。構成もしっかりしている。**二部静世**　この作家の発想は、たぶん個人的な心象風景に基ずいたものだと思う。その必然性が非常に説得力を感じさせ、そのメランコリーな感情がつたわってきます。**渡辺嘉之**　非常に微密な仕事で、構成力と安定感を感じました。**横山正義**　力強い表現力と構成力が作品にみなぎっておりすばらしい。

〈評　林田嶺一〉

加納和美「漁村風景」 平凡な漁村を大胆なタッチでまとめているがもう少し独自の世界を追求して欲すさまじい情熱は、次の年に発表される作品に昇華されていました。51年度全道展の会場で、本郷新先生が「野幌原始林」の大作の前で、長い時間足をとめ、近くの会員の方に「素晴らしい」と話されているのが印象的でした。色彩は明るく、タッチはます〳〵流動的になり、自分の表現しようとする世界が思うように表現できるというよろこびが、見る人に伝わってくるのでした。

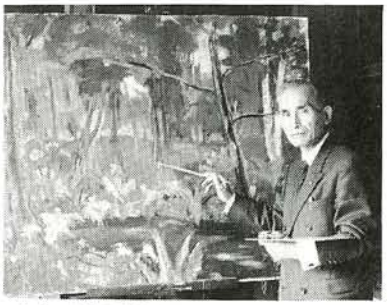
その後の数年間は、毎年札幌で個展をされ、お孫さんや、多くの知人に囲まれ画家としては、最も幸せな時を過されていました。

昭和57年に高血圧で一時入院後は、御家族からのたっての願いで面会謝絶の自宅療養となりました。絵をかけるまでに回復されたとの伝聞もあり、やがては全快されると思われていた矢先のことでした。

全道展の中で本格的な風景画に取り組む作家は少数であり、会として先生を失なうことは誠に大きいことと思われます。審査の席上で、江別からの出品者の少数なのを気にしていました。本格的な後継者を育てる夢を持っていたのでしょう。全道展としてもぜひ実現してほしかったことです。

7月14・15日の葬儀は道知事、国会議員も列席し、江別市長が葬儀委員長という盛大なもので、78年間の業績の偉大さを示しました。校長、道会議員、画家としての人徳をしのぶ参列者は、寺院の講堂からあふれ中庭までいっぱいでした。祭壇の右には先生が限りなく愛した野幌原始林の絵がかかげられ、参列者に静かに語りかけているようでした。

追悼



生前の諏訪田会員をしのぶ

諏訪田勝衛先生をしのんで

会員　手島　圭三郎

昭和44年頃、私は中学校の教員で江別へ転任して来ました。そのとき先生は、私が全道展に所属しているというだけでことばをかけてくれたのです、その頃は先生も私も会友でしたが、先生の会友歴は長く、昭和22年第2回展で協会賞受賞からであり、全道展の歴史そのものでした、昭和46年には会員、その時、偶然に私も推挙されたのでした。全道展の総会、審査、昼食は江別からの会員は二人、という意味でいつも並んでいたのです。先生が総会等で発言するということはありませんでした。政治家（道会議員）としての押しの強さのようなものはみじんも感じさせない、また芸術家としてのアクの強さも皆無。すぐれた教育者の持つ、相手をほめることばに作意を感じさせない誠実そのものという人柄でした。また昼食のときに気のついた事は、きわめて小食であり、それは長寿者になられる体質を感じさせ、後年高血圧で苦しまれることは想像できませんでした。

昭和50年は先生にとっては最大の苦難の年でした。奥様を病気でなくされ、道議選の敗退が重なりました。69才という年令もそれらの重圧にはかなりひびいたと思います。

先生はそれらの苦しみをすべて制作に専念することで、のり切りました。アトリエにベットが運び込まれ昼夜を問わぬ

しい。**佐々木治「ランプのある静物」**以前のテーマの追求に戻った右の空間が単調を打破り、マチエールの変化に光を感じる。更に新たな発展に注目したい。**下田徹「追憶II」**引っ掻きによる画面作りに独特の個性を感ずる。上部の顔の表情と位置に工夫が必要みたい。**篠木由美子「何処へ」**女性独特の甘いムードの漂う色調で一応の成功がみられるが、訴えの希薄な点が見られる。**佐藤展子「ウーマン」**数少ない水彩画の一点である。にじみによる人物表現が鮮やかな効果を上げている。構図の単調さが気になる。**道添宗敬「室内の人間」**三人三様の人物表現とブルーの諧調に爽快な魅力がある、次の作品に期待したい。**渡辺通子「椅子の上の二人」**美しい画面ですが、主題を明白に、もっと危険を冒してほしい。**渡辺貞之「終バス」**終バスの混雑が実感として伝わる。人物の表現、色調と構成に魅力がある。**加藤博希「蝎」**四体のカタツムリを致密な描写で表現されている。水彩の部門なのか、新鮮な個性を大事にしたい。**坂口美津雄「懐古C」**重厚なマチエールと独特の色彩で克明な写実が手堅い、道具立が多すぎると云う声もあるが…。**安部昭幸「崖のある風景」**画面上部の家に集中する構図と色彩、ともに密度の高い描写である。暗いトーンの赤と緑の色調に独自の雰囲気を生み出している。

〈評　本城義雄〉

（奨励賞）梅津薫「In a dome」は遠景に街景、近くを道具立てして異様な雰囲気を出し、現代の不条理な世界を表わしている。隅々まで描き込んで、省略する所が欲しいと思うことが作者の意図なのだろう。この種の絵は他にもみられた。**高橋永実子「作品（蝶）」**は蝶の中に風景がみえ、筆づかいが柔かく、さわやかさを感じる。**神保房子「作品(面)」**は小牧源太郎を連想させるが諧ギャグとユーモラスがあり、メチェもしっかりしている。**鳥本淳子「モビールのある室内」**は軽快な色とテラスから入る光彩が画面にさわやかな動きを与えて心地よい。**金沢実「作品」**はいつも変らぬ青系の人物群像で、人物のデッサンと斜めの線が気になるが、赤の入れ方が効果的だ。**原田恭子「牛骨と少年」**はしっかりした組立てで筆さばきも良く描ける人だ。**諏訪道子「夕暮の室内」**は何といっても筆で描いているのがよい。右上、左下の処理と斜線が気になる。**福田直子「夏の終り」**は全体の調子がバラバラなのが気になる。**長尾宇多子「人物」**はゆったりした描き方、反対色で効果を出している。左の人物がよく描けている。右と対比させるとよかった。欠点ばかりを書いたが、総じて、みなあるレベルに達し、皆さん、頑張って描いておられる態度には敬服する。来年は四十周年記念展。絵画への情熱をたかめ、更に佳い作品をみんなで描きましょう。心から今後のご健筆をお祈りします。

〈評　福井正治〉

成田勇吉「乗馬訓練」制作の態度はりっぱだと思う。物の形にこだわりすぎて、よろこびや感動が弱くなっているように思う。**酒井俊行「室内―予感」**複雑な社会の喜怒哀楽がよく伝わってくる。上部のバック部分にもうひとつぬくもりを感じたらもっと快の面も感じとれるかと思う。**船川照枝「枯」**表現の意図をもう少ししっかりとしたらどうか。上部の人体はもう少し画面に入れた方が良いと思うが。**宮下淳「曇を摩す」**力をもった作家だと思うが、美しく見せることも考えた方がよい。人物の表現にも、もうすこしやわらかに迫るものを。**斉藤矢寸子「Land-scape」**ねらいは面白いと思うが、全体に硬すぎませんか。椅子の果物は不要と思うが。**本庄康伸「杳然」**緊張と安らぎが適当に交差して、ほのかな人間を感ずる。いつも頭に残る作者です。**大平弥生「風景B」**斜めの大胆な線はこの絵を大きくしている。線の調子が同じすぎる。**後藤敬子「窓辺の静物」**非常に楽しい作品であるが、もう一息素直になってもよいのでは。窓の中の風景は硬すぎる。**小林和子「陽登美さん」**青色がさわやかで、心情がよく伝わる。緑の色をもう少し整理して、力のぬくところがほしい。**佐藤佳人「動物I」**表現方法はおもしろいと思うが、もう少し絵の具を定着させたい。黄色や赤にもうひとつ定着と新鮮さがほしい。　**稲田和夫「骨のある室内」**なごやかさと静かに訴える力作だと思う。実力のある作家で期待したい。やや緊張しすぎではないだろうか、ぬける面があるともっと豊かになるように思う。

〈評　長谷川忠男〉

森　弘志　しっかりした表現力と構成の美しさはすばらしいと思うが、自己の内燃化による燃焼の作品でありたいもの。**今西直人**　ユニークな構成と豊かな発想はすばらしく、活力にあふれている。独創性のよさが本物として探究されたい。**池田　緑**　非常に緻密な仕事はすばらしい。ただこうしたネオリアリズムの作品は技術にのみ終ることがある。**佐藤綾子**　発想があまく造型性が弱いが、よくかき込んでいると思う。心情的なうったえがもう少しほしい。**岡野修己**　質感の苦労のあとがみえる所と重色の方法に考慮の必要な所があり、ただ古い家といった事でないものがほしい。**三沢邦子**　筆でしっかりかいた力強さがよいが、重色とデリカシーも考えてみてもよいのでは、来年を期待します。**川村淳智**　絵づくりが秀いでていると共に、色調のハーモニーも美しいが、作者のハートからにじみでるものがほしい。**深谷栄樹**　絵づくりがうまい。大作による力強さもあって良い。技法より説得力が作品を決定すると思う。今後期待します。**長谷川順子**　大作としての姿勢はよいが、精神的な燃焼化による叫びのようなものが表現されてもよいのでは。**井上和則**　リアルな人物表現のデッサン力は力強くてよいが、同一パターンで動きがとれなくならない様にすることも考えてほしい。**加藤健二**　色調もよく、構成もしっかりしており、技術的にもすぐれており、感覚的なよさがすばらしい。来年を期待。**池田征史**　なぜ斜めにしたのか、必然性がほしい。昨年の作品からどう発展したかがほしい。今後に期待したい。

〈評　米谷哲夫〉

〈版画〉

二川原和博「昨日の風」人物を控え目に、優しさが感じられます。しなやかな空間づくりに配慮を。**大野重夫「湿原の詩A」**しっかりした彫りに、青いトーンが美しい人物の表情にペーソスが加われば一層美しくなるでしょう。**坂本正子「記念撮影」**大らかな表現は好感が持てます。密と粗、明と暗のバランスをかみ合わせて、大きく作ってください。**平田正人「浅春」**長閑な暖かみのある作品です。形色は観念にとらわれず、のびのびと表現して下さい。　**宝賀寿子「コケコッコー」**童心を思い浮かべます。力強い表現は定評がありますが、子供にナイーブな表情が欲しい。　**越谷賢一「SWITCH-ON II」**ひとつのパターンから色々な表現を試みたモダーンアート爽やかです。感覚が技巧的にならないように。　**木の瀬博美「両空間の狭間でII」**簡素な形としっとりとした色彩の構成。今後、形と色の語り合いが必要です。**瀬戸節子「遊園地B」**陽気な構成力が面白い。キメ細やかな刀の切れ味を折り混ぜて、より大きな動きを。**相馬明「町工場」**カッティングの柔らかな表現が効果的です。たくみな力の捌きを生かして、大胆な構成力に期待。　**西窪永全「早春の湿原」**近景のしっかりした描写

は好感がもてますが、全体的に固さが見られ、湿原の湿っぽさが欲しい。**三寺良司「葬送―冬から春へ―」**樹間を覆う空間には、広がりを見せ、よく表現されていますが、もうひとつ樹木に彫りの変化を加え、生命力を与えたい。

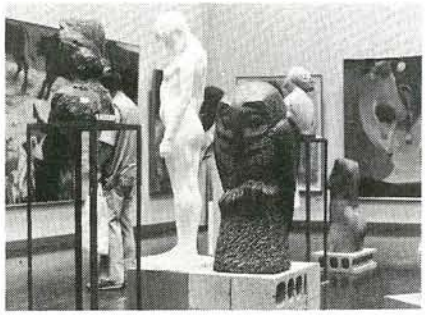
〈評　玉村拓也〉

佐藤まゆみ「憧れのチェリーロード」無秩序にばらまかれたような木の葉が渦巻くような無限の宇宙え変貌して行くようである。**北川佳枝「GLOOMy WEDNESDAy」**異った面を持つ二つの建物が対比的におかれて、雪の日の二重唱がしずかに聞こえてくる。**佐伯美枝「太陽の東・月の西」**太陽は沈み、月はまだ出ない暗黒の世界の中に現代の不安をのぞかせているようでもある。**小池真理子「内部からのメッセージ2」**この人はなにかを吐き出したがっているようでもある。うっ積したものが出口をもとめて噴出させたいのであろう。**越谷賢一「SWITCH―ON II」**絵も記号、文字という記号も絵になるアクワチント技法にこんな想は最適のようだ。**和田裕子「土色の家」**構成的興味と説明的興味とが相殺して感動をうすめ、セン細な技術を活かせなかったのはおしい。**美水まどか「競馬場と騎手2」**ピエロの様な騎手のコスチュームがボーリングのピンに似て動かないのはユーモラスである。**高田京子「竜宮奇潭　空」**なかなか腕のたつ人である。空をよぎる人工衛星に不気味なボッシュの世界をたくしたようだ。**土門絵美「一人のアダム」**男性ヌードに挑戦、だが肩の上にちょこんとのった頭は異様である。空缶は何の意味であろう。**岡本早百合「ペコニアI」**親指姫物語のように甘美なメルヘンの世界である。さわやかなフォルムは風を誘って健康で美しい。**三神ひさこ「余白の嶋」**これもまたメルヘンなのであろうがもの憂い、けだるさが漂っていても構図や描写に緊密さがある。**玉村和也「春耕」**残雪の山ふとところに春を呼ぶ労働のあと、春を待つ風景は孔版の効果で生活実感がにじみでている。**原島典子「踊り子　春風」**メゾチントの技法は見ごたえがあるが使いふるされた平面構成や様式に新鮮さが欲しい。**干場良光「激　IV」**正方形を作る円形が光の干渉を起している分子構造のようで極徴の世界へさそいこまれる。**杉浦篤子「遠い夏IV」**つくられた空間に置き忘れられたような静物がかもし出すふんいきは超現実主義のようで古めかしい。

〈評　伊藤倭子〉

〈彫刻〉

今年の彫刻は昨年より充実したという印象を持っています。優れた木彫やコンクリートなど素材も多様化しましたが、その素材の良さを引き出した秀作が多く見られこれからの発展が大いに期待出来そうです。中でも新会友となった**二部黎　川田静子**　両氏の作品は、具象でも際立って良かったと思います。又、大きな立像に挑戦し、しっかりした肉付けの佳作も沢山ありました。**橋本諭、小野健寿、西山昇**など、安定感もあり確かな力を感じました。以下列記します。**木彫　花田正雄「流露」**はここ数年、一段と力をつけ、構成力もしっかりしてきて、もう会友近しの思いがします。まだ、具象の臭いが所々に残り、それを一掃し無機に徹すると良いと思います**渡辺行夫「無題」**は、石を良く知り、うまく使っています。柔らかさと堅さを今一歩、考えてみて石を荒す事も必要です。**池田啓子「ゆう」**は大きな量感があって力に溢ふれたものであったが、各部のデフォルメが荒く、しまりなく見える面があるので、つながりを大切にして下さい。**谷内健「立つ女A」佳作賞**は、荒い肉付けながら、熱気にあふれた若々しいしっかりしたものになっていた。テラコッタの首も細部にこだわらず、表情がおさえられていて秀作である。**中谷紀子「幼」**のテラコッタも、とらえにくい子どもの表情を少々甘くはあるが、肉付けをおさえて構成してあり良かった。**藤田美樹「里佳」**の石膏立像は、各部分はよく見て作ってあり、習作としての姿勢には申し分ないのであるが、量感が今一歩で少々細部にこだわりすぎて、全体にきすぎすしてしまったように思います。**川名義美「道」**は少々凹凸が激しすぎたように思う。**本田泉の首**は、面と面のきれ味はよいが、その接続に今一歩突っ込み不足である。**今谷孝「頭像B」**は、右左の顔がちがいすぎているのが気になる。鼻のあつかいなど基本にもどって欲しい。**浜野三喜男のトルソ**は、のんびりしていて量感もあり佳作である。腕の切り方や首から胸にかけては何回も吟味して欲しい。**長野晃児**　首が細くなっているので弱く見えてしまった。**佐藤守男の乾漆**は目の部分に難がある。**宇佐美篤子のトルソ**、荒けずりながら量感もあり力作です、只、側面が弱い。



〈評　伊藤寿朗〉

田中勝宏「トルソ」上へ向う動きも感じられる背面での良さを、正面でも生かしてほしい。上部の切り方も一考を。**佐藤公毅「想」**緊張感のある魂と独自のフォルムを持った作品。**外山佳志子「由衣子像」**情感のある首、後頭部がやや弱い。**池田譲「胎芽」**今迄の具象作の方が魅力があった。今年のは、材質自身が語ってしまったのでは。**仲井靖典「首　84」**要領良くまとめられた首ですが、首の付け根に気くばりを。**竹生元「首III」**前髪の処理が全体の中で強すぎるのでは？**須藤良明「安曇野」**近づいて見ると額や掌が気になるが、確かな構成、肉付けの良さ、そして静かな動きが快い。**平田輝雄「S壌」**大摑みな表現は良いが、量のしまりが欲しい。**森戸春樹「態」**全体の流れが木の質とともに表われている、台が強すぎる。**川辺由紀「トルソ」**弱々しい印象を受ける。例年の作品から推測して洗練されたフォルムに変わるプロセスと感じている。**樹下和子「頭部」**大らかな作品、首の両脇の線と髪が気になる。**堀　悦「春」**あるイメージを持って制作していると思うがモデルを見る際、人体の力の移行関係を意識し進めてほしい。**押上緋沙子「首　II」**瞼が目につき頬や顎の良さを見えずらくしている。**前田　優「YASUNORI」**堅さは造られているが、作品の内側から語られるものがほしい**佐藤雅奉「座す」**荒い印象を受ける。以前のセンスで続けてほしい**田中隆行「女」**自分のフォルムを持ち良い仕事を進めている。今回のは頭の大きさが気になる。**高橋雅文「ナオミ」**実力を持った人、小気味良い切味をどう展開して行くのかが楽しみ。

〈評　小野寺紀子〉

〈工芸〉

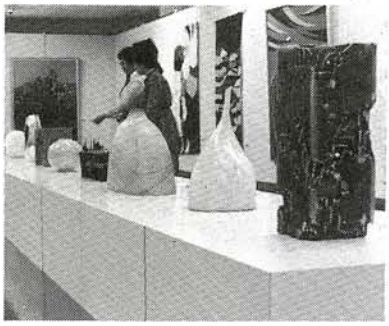
東堂亮之「過去からのメッセージII」鋳、素材（アルミ）をよく生かした佳作。強さが欲しい。（**奨励賞**）**丸山裕淑「午後6時の情景」**鋳、形態に合致した地肌の工夫があれば効果的。**鳴海俊也「生命風」**鍛、鎚目にもっと変化があれば鍛金特有の軽快と強さが出ると考える。**中秋勝宏「予感・84」**鋳、表面処理の無駄と台が目立つ点を整理したい。**福井伸一「流光・発」**鋳、ていねいに原型作りされた技巧の見立たぬ佳作。**長谷川正己「樹層」**鋳、基本に忠実な作品である。**古沢浩明「時と眠る」**鋳、銅鉄の鎚目出しの効果を生かした展開性のある作品。**立川岩治「唐木象蕨双木壺」**木、ロクロ技法をもっと効果的に利用して欲しい。努力の作品である。

伊藤啓子「RANGE K・I」織、作者の情感がよく表われた作品。今後大胆な発想の転換が欲しい。（佳作賞）菅原栄子「南海のランデブー」染、作意の主張が弱い。笹島和子「春浅く」染、地色に工夫が欲しい。関川菊代「兆し」染、デザイン性が加われば、より個性的になると考える。森田喜己「風の記憶」染、情感の出し方に配慮したい。庄司光江「コスモスが咲いた」染、画面を整理し、情緒を包んで欲しい。山崎澄恵「窓辺」染、デザイン性を加え、主張を明快にしたい。渡辺邦枝「作品36―B」織、タピスリーとしての用途性を明確にした仕上げが必要。今井京子「サッカーボール」織、素材の造形化に一工夫したい。年毎の努力作はうれしい。及川まゆみ「萠芽」織、ソツなくまとまっているが、作意の強調が欲しい。浦谷由美子「TRIANGLE OF SPRING」織技法をもっと生かした作を今後に期待する。寺岡和子「SIGNS OF SPRING」技巧の目立つ作品、もっと自己主張の作品を期待する。三好美和子「華」織、用途性を配慮した仕上りを期待する

〈評　折原久左ェ門〉

佐藤孝子「波紋」創作力があり紋様がよい、焼不足に見えるのが残念、会友推挙奨励賞受賞大慶、今後の精進を念じたい。岩崎貞子「さけび」成型技が釉色と調和して女性らしい作品と云えよう。井田享二「波状文鉄釉花瓶」平凡な形体だが紋様が面白い、釉色の暗いのが気になる。松原成樹「DOON」は昨年作より見劣りする焼不足ではないか紋様に物足りぬものがある。秋田清陶「壺あかり」は造形力があり紋様がよい。高間裕子「作品B」紋様がすばらしい暗い釉色が少々残念。内野正樹「窯変鉄釉鉢」成形釉色共に安定感がある。佐藤正勝「ハーモニー」釉色がよいが形体が少々弱いと思う。堀田純一「種族の証」考想が面白いが焼不足に見えるのが残念。大室ヒサ「おりべ櫛紋花瓶」入念な紋様が効果的だが、形体に少々不満がある。相馬康宏「胚胎」成形の苦労は認め得る、釉色も悪くはないが施釉の粗雑さは残念。高野陽子「湖愁」造形力があり釉色も良い。無難な作品と云える。杉山民子「北の民」形体紋様釉色共に調和して上出来の作品。佐藤孝男「鉄釉壺」造形力が充分。窯変自釉にしたら一層効果があったと思う。小粥紀恵子「さざんか花」低火度焼成なのが残念。尾形香三夫「練込文壺」練込技法がよいが小品なのが残念今後大作に挑まれたらと期待する。佐久間弘子「暮」造形力があるが象眼は今一歩というところ。青磁の色調も悪い。武田律子「墓標」形、色共に良く大作と云える。今後の精進に期待したい。石川真理「碧水の滝」題名通り色調紋様共に素晴しいが底部の焼割れが問題では？工芸特に陶芸作品は無傷を貴重とするのが常識で、今後の出品には良心的配慮を願いたい。陶芸作品は年毎に増え、喜ばしい現象だが本州作家に比較して今一歩の感ある事実を、認めざるを得ないのが残念。

〈評　山岡三秋〉



第39回全道展 授賞式と懇親パーティ

熱気むんむんとした出品者の集団とその関係者で会場が一杯。厳しい審査の中から選ばれた受賞者の表彰、各部門毎の審査講評で授賞式は終了。引き続き懇親パーティに入る。

来年は四〇周年とあってか、出席者は二二〇名と大盛況で幕を開けた。先づ、創立会員の小川原脩さんから全道展を代表して今年の感想と今後のビジョンを語ってもらった。「全般的に全道展風の作品が多く、入選、受賞のパターンを真似るような絵で新鮮味が薄く、このまゝでは尻りつぼみになる。これを打開するには若い層とベテランとの間に葛藤が必要である」と力説、そして「新会員の水落啓さん、佳作賞の杉吉篤さん、会友賞の羽山欣周さんのユーモラスで自由な絵はよかった」と賞讃した。

乾杯は、北海道新聞社編集委員の竹岡和田男さん、全身から溢れるファイト一杯に、元気よく一同「カンパイ」で賑々しく会食に入る。各テーブル毎歓喜の笑い声が高らかに響き和気あいあいのムードが流れた。

最初は、今年初入選者、二〇数名をステージへ送りインタビュー「本当に嬉しい、入選することは厳しかった」とその感激を語ってくれた。

余興の部は趣向を変えて、リクエストカードを利用し、会場の方々から出演者をステージへ送り出してもらうことにした。

先づアルコールの回った頃より、川田静子（新会友）本田明二、栃内忠男、本城義雄、佐久間恭子、浅山咲知（新会員）砂田陽子、藤田博子等々の各氏、美しい喉を披露。国松登さんのハンカチさばきも見事に恒例の手品が出る。協会賞の酒井俊行さん、水落啓（新会員）さん等の感激の一言も加わり会もクライマックスに到る。話は尽きることなく余興もこれからというところで時間切れとなり、宮田久さんのバンザイ三唱で目出度く終止符。

楽しい談らんは夜の暮れるのを忘れ、ラッキーな福引きはボトル券から、デジタルウォッチ、電卓の高級品から珍品まで五〇点が幸運な方の手に。

三次会は三三五五夜のススキノ方面へと姿を消し、思い出の一ページをクリエートしたことでしょう。

（文責　大地）

6・30　於札幌市民ギャラリー

第26回学生美術全道展／搬入・9月2日(日)／会期・9月20日(木)～25(火)／札幌(井)今井

道都さっぽろの中心に
美と芸術のひろば
アートギャラリー　さいとう
札幌市中央区南1条西2丁目(井)隣
丸一ビル2F　T ☎011(222)3698

オーク画材
札幌時計台ギャラリー
〒060札幌市中央区北1条西3丁目
札幌時計台文化会館　☎261－8971

洋画・日本画材料
大丸藤井
セントラル
札幌・南1西3

全道展・図録・ZEN等への意見要望・質問など

● 全道展を更に活気あらしめるためにどしどし「新しい仕事」にチャレンジしマンネリを打開していく方向を願っています。みな様、新年会でお逢いしましょう。　札幌　大地康雄

● 今年の図録はいつもより良いでき上りと思う。写真が少し濃いかなあ？　来年の四〇回展の記念誌に期待してます。　歌志内　本城義雄

● 図録についての誤りが発覚した段階で何らかの措置をとるべきではないか、題名の誤りについては、とんでもない意味のとれないものになる。小生の今回のものは「ミクロ」がどうしてあの様な構成になるのか、みるものにとってみれば理解できないでしょう。「ミロク」になってはじめてあの構成になるわけです。　函館　秋山沙走武

● 来年（第四〇回展）における図録は会員、会友のみカラー写真にしたら如何でしょうか。この件につきましていろいろ問題もあるでしょうが、会務委員会にかけて検討してみては……と思います。　東京　菅野充造

● ZENに、全道展評など、会友のもしていただけるとありがたいなあと思っております。　札幌　砂田陽子

● 私共はさして気に致しませんが、全道展創立以来、会員と会友、一般受賞者の区別を、今回階上、階下に展示区別したのは初めての事です。「あの都美術館の中央展並に、全道展もするのか」と酒の勢いを借りて話してました。中央出品者の若手の方の意見を耳にして、なる程と思いました。市民ギャラリーに入って三年目ですし、二階を得たのもこの会場からなのですが、かってのデパートのように「あの先生の横に僕の私の作品が展示された」という、輝かしい眼の初出品者の心情を崩さないように。　札幌　夏山亜貴王

● 水彩入選者が初入選を含め六名と除々に増えてきたが、惜しくも選外になった常連もおり、厳しいのは例年のことながら水彩出品者のますますの努力を望みます。特に男性入選者ゼロなのは淋しい　札幌　池田正之助

● 四〇周年記念展では、大賞の賞金を多くして、ポスターにも書いたら如何かと存じます。又、出品者（入選）に招待券を一枚位はあげてほしい。　札幌　八木伸子

● 全道展、躍進の妨害者は……他か、己れか、ジックリ議論せよ、「新しい芽を育てるためには古い根を断つ」を期待します。　函館　折原久左エ門

＊　＊

四〇周年を翌年に迎えて、貴重なご意見を多数いただきました。現在四〇周年事業については、企画委員会、実行委員会を中心に検討中です。皆さまのご要望にそうよう努力していく所存です。　**事務局**

仲間のたより

● 七月十七日より八月四日まで中国シルクロードの旅に出ます。ウルムチ、トファン、西安、洛陽……と巡って来ます。猛暑が心配です。　札幌　原義行

● 十一月一日～十二月十六日、富山県立近代美術館「現代日本美術の展望―グラフィックアート&デザイン展」に、モノタイプによる大型組作出品予定、五月に出身地徳島市の翠峰画廊で、画廊企画展をしてもらいました。口中手術のため行けませんでした。手術前後で全道展には出られませんで申しわけありません。　小樽　一原有徳

● 一月にインドに旅行、インドの中に日本をみつけ、帰ってきてから、日本の中にインドをみつけ「ガンジス瞑想」を描きました。インドでヒンディ語をせっせと綴っていると、インドの人が読んでくれた時のうれしさは格別…。39回展では、ヨミスさんて男だったのと言われてぎょっとオドロク。「ハイ、男でした。ヨミスというのは嘉と書きます。でも漢字では誰も読んでくれませんので…。」と説明……男ヨミス、がんばります。　島松　田中ヨミス

● 八月六日から、NDA画廊でリトグラフの個展をします。ZENが発行される頃は終ってるかも知れません。これは札幌版画塾で学んだ人たちが、一人一週間ずつ連続して一〇人が個展をするもので、ぼくはいちばんはじめにやることになりました。リトグラフをはじめて一年半くらいですが、その魅力にとりつかれて、毎日が一喜一憂という感じです。個展が終ってからも札幌版画塾の講師だった白崎さなえ先生や、仲間の土門絵美さんなどと共に、グループ展を計画したりして発表する機会を持ちつづけたいと思っています。　札幌　干場良光

● 東京から一時間ほどのここ千葉でも三一度を越える日が続き、夜になってもぬるま湯につかったままのような状態です。作品も数が揃わず、出品することが出来なかった後悔と、札幌への望郷の念と、体調の悪さでこの暑さが数段厳しい三〇才の夏です。健康が一番です。皆様方にもどうぞお元気でご活躍下さい。　千葉松戸　八木知子

● 七月にアトリエを増築しました。新しい作品に取り組んでいます。苦小牧支部の幹事をすることになり、急がしい一年になりそうです。　苫小牧　高橋正敏

● 最近、河出文庫の坂崎乙郎著「絵とは何か」を読みました。氏独特のかたよりはあるものの、絵に対する純粋な情熱が伝わって来て、印象に残りました。　岩見沢　梅津　薫

● 何とか日蔭を多くつくり、大きい作品を家のまわりで涼しさをもとめつ仕事が出来ないものかとあれこれ……
1　その朝、天気予報で雨、風をつかむ
2　パゴーラ、まわりの立木、小屋などあらゆるところに作品を或る程度の風圧にたえる様、ビミョーな工夫を施すこと四ケ所、3　最も条件のいいところはテント五米×二、四米のもの、片流れにはり床は国鉄払下げの枕木を敷いて（雑草は生えないし除雪も便利）　4　絵具は駅弁式の箱で移動、　5　あゝ涼しや、夕方は特に快調、絶対人を呼ばないぞ。　歌志内　森谷　一

● 巻頭言のさわやかで説得力のある便りに、心打たれ考えさせられました。私も初心にかえり、自己を見つめ、時と戦いながらも制作していきたいと思います十一月個展を予定しています。ご指導よろしくお願いいたします。　札幌　武田忠子

● 今年は審査に是非出席したいと思っていたのですが、行けなくなってしまって残念です。来年こそはと思っております。お手伝いが何もできなくて申し訳なく思っております。　東京　黒田栄一

● 四月一日付で勤務先が変わりましたアトリエは変わりありません。釧路町立東遠野中学校。公宅〇八八―二一釧路町東遠野☎〇一五四（四〇）三二六七　週に二度ほどアトリエに行きます。九年ぶりの学校勤務です。　釧路　柳　悟

● 昨年一月から脳コウソクで入院、右半身不自由になり、現在家族の助けで少し歩行、外出はできません。長年の治病の耳鳴りが一層激しく今は制作はできません。左手で、辛じて杖で動いています　函館　東　政雄

● 九月の個展には、近作のテラコッタを中心に、ブロンズの小品と人物デッサンを展示予定。最近体調がよく、健康回復を感謝し少しでもはづかしくないよい作品を持参したく制作に励んでいます。札幌では、はじめての彫刻個展ですのでなにかとよろしく御指導下さい。　函館　小沢ミドリ

● 全道展に対する愛着が出品毎に強くなってゆきます。目標が一年に一度きちんとあることは非常にはりあいがあります。来年はもっと地塗りを工夫して、厚みのある絵にしたいと思ってます。　広島　藤井高志

● 昭和三〇年全道展初入選した時は本当にうれしかった。それから通算して二〇回出品していると。彫刻する者にとって一番のなやみは、場所、モデル、指導者等のことだ。札幌に来てからは小さい乍らアトリエをもち、モデルもなんとか、

秋の企画展「第39回全道展受賞者招待展」10月15日(月)～10月20日(土)大同ギャラリー・札幌

ぜんしんなデザイン
良心的な値段
株式会社 松山額縁店
札幌市狸小路5丁目 TEL(代)251－9000

緑の空中庭園に囲まれたギャラリー
大同ギャラリー
札幌市中央区北3条西3丁目
札幌大同生命ビル　TEL 241－8271内88

印刷の美を、私達は考えます。
中西印刷株式会社
札幌市東区東苗穂町505番地 ☎011(781)7501

指導者については全道展に所属していることにより勉強が出来そう。これからも初心にかえって制作することを心がけていたい。　札幌　小野健寿

● 会員の一人としての発言では、いささか我田引水の感がありますが、今年の全道展は密度が高く、見応えがありました。当番の日の外に友人を案内して出向きましたが、見る度に発見がありました。ところで、図録やZENの編集委員の方々の苦労に敬意を覚えます。大変なことと見受けられました。また、会計担当の池田さん、三年間誠にご苦労様でございました。　大森亮二

● オンボロ長屋で、一軒だけしかない静かな緑が多く、ときたま玄関の前でキツネに出くわしたりするところに住んでいます。全道展に入選、うれしく思っています。　夕張　篠木由美子

● 秋よこい……。七月に入って暑い日が続いている。つゆが明けると湿度は少し下がったが暑さは増した。この状態が続くかぎり集中して仕事ができない。早く秋がこないものかと毎日を過している。　川崎　大高　操

● 老視がすすむのは当然なんでしょうが、近視の方もまだすすむのには閉口します。(彫版と顕微鏡のぞきのせいでしょうか)それで展覧会の際、作品名、作者名が小さすぎたり、下がりすぎたりすると作品を見ながら作者名を読みとるのに難儀しております。そう言う目の方もかなり多いことと思いますので、その点もよろしく御配慮の程を、　苫小牧　浅野武彦

● 秋久しぶりに八木と二人で旅行に出ます。蛯子さんのパリ個展が見れると思います。　札幌　八木伸子

● 九月末から一カ月、久しぶりに海外旅行に出ます。　札幌　八木保次

● 札幌での回顧展出品画を送り出すため、この七月は全く落ちつかず、ZENの〆切に間に合はなくなったのをお詫び申します。また、今年の不出品についても申し訳ない次第です。札幌の回顧展は九月八日からですので、その節皆様のお顔を見るのを楽しみにしております。　東京　田中忠雄

● 八月の札幌個展の後、年内に一度、苫小牧サンプラザで苫小牧では初の在京会員渡辺真利氏の個展があり久し振りで野本醇氏等と歓談しました。　鵡川　福井正治

個展グループ展案内

●小野健寿個展
8／7～8／12　大丸藤井セントラル・札幌
●尾崎志郎と行彦版画展
8／13～8／18　札幌大同ギャラリー
●尾崎志郎木版〝郷愁の館〟展('60～'80の作品)
8／13～8／18　アートプラザ・札幌
●福井正治個展
8／14～8／19　札幌大丸ギャラリー
●松隅康夫彫刻展
8／27～9／1　札幌大同ギャラリー
●第2回北のやきもの展　山岡三秋他
8／23～9／2　アートプラザ・札幌
●北海道陶芸会展　山岡三秋他
9／未定　西武百貨店1F・旭川
●一原有徳個展
7／17～7／22　はこだてギャラリー
9／(未定)ヒルサイドギャラリー・東京
●鎌田俳捺子絵画自選展
9／3～9／8　時計台ギャラリー
●鵜川五郎個展
9／7～9／11　テーオー小笠原4F・函館
●本城義雄個展
9／10～9／15　時計台ギャラリー
●斎藤一明彫刻展
9／11～9／16　ミヤタ画廊・釧路
●坂原チエ個展
9月下旬　ギャラリーレティナ・2札幌
●小沢ミドリ彫刻個展
9／24～9／29　時計台ギャラリー
●版と八人　渋谷栄一、渡会純介他
10／1～10／6　時計台ギャラリー
●騎の会3／5(具象彫刻グループ展)
小野寺紀子、川名義美、西山昇、今谷孝池田啓子、竹林昌子
10／8～10／13　時計台ギャラリー
●栃内忠男個展
10／8～10／13　銀座文春画廊・東京
●森谷一個展
10／10～10／15　大雪画廊・旭川
常時(二カ月毎に替)コーヒーほし・砂川
●小関恵久子個展
10／10～10／17　一番丁画廊・仙台
●小島真佐吉展
10／15～10／20　銀座資生堂ギャラリー・東京
●第一回こぶ志かまぐれ会展　山岡三秋他
10／18～10／23　札幌㊊今井7F
●秋山沙走武個展
10／30～2週間　日本橋三越・東京
●長谷川忠男個展
11／5～11／10　時計台ギャラリー
●坪野秀子個展
11／5～11／10　時計台ギャラリー
●彫刻家集団〝北斗会〟試作展
1／上旬　五稜郭ニューギャラリー・函館
●原義行個展
11／19～11／24　時計台ギャラリー
●渡会純介個展
11／20～11／25　大丸画廊・札幌
●女流五人展　八木伸子他
11／下旬　銀座三越・東京
●谷口一芳自選展
12／17～12／22　時計台ギャラリー
●第二回五人陶芸展　山岡三秋他
12／未定　札幌㊊今井7F
●菅野充造個展
1／14～1／19　櫟画廊・東京

住所　電話番号・呼称変更と転居

久保田　実　〒〇五九―三四　浦河町字野深三五二
☎〇一四六二(七)四二二〇

お知らせ、お願い

● 新事務局(新会務委員)の構成が次のようにきまりました。事務局長／後藤庸也、事務局次長(会計)／久守昭嘉、編集／伏木田光夫、坂口清一、企画展／玉村拓也、竹岡羊子、会合／青木淳子、田部隼夫、巡回展／山本一也、長谷川忠男学生展／田部隼夫、山口惣市、竹岡羊子本展／山口惣市、小関恵久子、記録／長谷川忠男、前次長の池田正之助会員他、バトンタッチされた会務委員の方々、ご苦労さまでした。

● 住所、電話番号、呼称変更と転居の方。事務局までご連絡ください。

全道展創立会員

田中忠雄展

59.9.8(土)～10.3(水)
午前10時～午後5時　月曜休館
会場　北海道立近代美術館

第39回展図録訂正、慎しんでお詫び申しあげます。

P4　24行目嫉妬、26行目若い血潮
P5　3行目研磨
P16　15行目ようすが気になって、しょっちゅう
P21　中列4行目冷凍車
P25　左列26行目130号
P49　谷口一芳画題を昂
P54　藤井正画題南仏シピエールをとる
P66　秋山沙走武の題名はミロク
P76　手代木惇
P78　穂井田日出麿の題名はずし娘
P79　新覚紘一朗
P134　67・南仏シピエールをさる
P136　絵画184倉庫
P137　彫刻1ミロク
P140　11坂口清一、南区澄川6条11丁目
7～24　53鵜川五郎　62長野寛
P141　69石塚貴羊史〇五〇登別市美園町五丁目三五～一二　☎〇一四三八六七九三八
77福井正治　☎〇一四五四四五二四〇
版画4尾崎志郎北四一条東一丁目ロイアルハイツ
版画6玉村拓也☎〇一一(六四一)四二一七
P142　絵画6夏山亜貴王、電話局番を七一六　22新覚紘一朗　26工藤善蔵室蘭市知利別町46手代木惇
P143　29熊谷充恵北区新琴似一〇条五丁目三～四　32佐藤公一北区篠路町上篠路
P145　14千場良光〒〇六〇　15宇佐見篤子〒〇六九～〇一
P146　20佐藤公穀32前田優☎〇一五二(四五)二八五三
P147　第一回展会友推薦森本三郎　第三回展会友推薦伊本淳
P148　第四回展奨励賞栃内忠男
P152　第二一回展会友推薦長野寛
P190　ぎゃるりーポアール広告、年二回の完売実績有り

全道展に関するお問い合わせは次の所へ。
・全道展事務局／〒〇六三札幌市西区山の手3条11丁目☎〇一一(六三一)一六〇二　後藤庸也
・北海道新聞社事業局文化部全道展担当／〒〇六〇―九一札幌市中央区大通西三丁目☎〇一一(二二一)二一一一